

飛び出す 繋がる はじめの一歩はここから！

-第8回東北OM勉強会in秋田レポート-

7月23日(土)、秋田市アルヴェ(秋田市民交流プラザ)を会場に、東北まちづくりオフサイトミーティング(OM)第8回勉強会を開催しました。

今回の勉強会では「飛び出す つながる はじめの一歩」をテーマとして掲げ、東京大学名誉教授である大森彌氏からの基調講演やはじめの一歩を踏み出した事例紹介、バズセッションなどの内容で、東北内外から参加された約100名の皆さんも一様に充実した表情が印象的でした。

今月号では、熱気あふれる秋田勉強会の模様をお届けします。どうぞご覧あれ！



基調講演 『こんな地域の担い手で あってほしい！-時代・地域・自己形成-』

地域が育んできた「地域原語」は人と人をつなぐ最も重要なツール！

この日本という国は本当に多様な国んですよ。まったく一様ではないんですね。東北六県も全然一本じゃないし、同じように九州も関西もそれぞれ違いがあるんですね。では、この違いってどこから出るかというと、「地域」が違うからです。この「地域」という概念はもともと学問的にあいまいな概念です。

地方自治は当然ながら「地域」なしにはあり得ないわけです。フィジカルな意味で、そこに「土地」があるということが前提ですが、それだけで自治体が成立つものではありません。

この「地域」の担い手を育てる上で重要な要素は、その土地がこれまで育んできた「地域原語」です。それは、人と人をつなぐ最も重要なツールです。その言葉はその地域にふさわしく存在しているわけですよ。ですから「地域原語」が最も重要なんですよ。

**基調講演 講師 Wataru Omori
東京大学名誉教授 大森 彌氏**



故郷を捨てるかのように地域原語を捨てていった若者たち…

戦後、この地域原語に非常にダメージを与えた時期がありました。私はだいたいNHKが悪いと思ってるんですが、NHKは共通語で話すわけですよね。そうすると、色んな番組で地方へ行くと、面白おかしく地域原語を話すんですね。受けがいいからと言って。でも、あれは地域原語を軽蔑してたとか言いようがないよね。

従って、地方から東京へ出てきた若者がみんな地域原語を捨てて、共通言語で話すことがどこか一人前になったような気分にさせていったのではないかでしょうか。まるで故郷を捨てるかのように地域原語を捨てていったんですね。だから地域原語を維持していくことって、ホントに大事なんですよ。

例えば市町村の現場に話を落とせば、基本構想や自治基本条例なんものは地域原語を入れて描きなさい！と言いたい。「地域」の最も大事な要素は、地域の暮らしの中から育まれてきた地域原語です。ですから、皆さん方が現在使われている言葉を絶対に失ってはいけない。

人と自然、人と人の関係、これこそが地域の本質！

この「地域」がどう成り立っているかというと、基本的には、広い意味での「自然」を必ず持っています。そして、人々が暮らすための「人工物」がありますね。そして「人」がいて、これらが結びついて多様な「活動」「出来事」が起こるわけですね。そして、それらが蓄積され、その地域の「歴史」となるわけです。

ここで、決め手になるのはやはり「人」と「自然」の関係、そして「人」と「人」の関係。これこそが地域の「本質」です。

問題は、その関係がそれぞれ違うということ。自然の併まいの違い、或いは人の育ち方が違うからそれぞれの関係も変わってくる。それこそが地域がそもそも持っている「個性」となるんです。

ですから、みんな固有の存在となるわけですね。地域を比較して、この地域が進んでいる、あの地域は遅れているということはないんですよ。



それぞれの地域社会には、固有の人々の暮らしがあって、それは他と置き換えることはできない固有の価値を持っています。

従って、それを大事にして次代に継承させていくこと以外に地域が生き残れない私は思います。これを前提としてこそ、地方自治の営みが成り立つのではないか。それも分からぬ人間が自治体の職員であってはならない、絶対に！

そのことなしに、単に仕事場だからその仕事を淡々とやりやいいってもんじやないでしょ。地域なしに成り立たない職業だということを分からぬ職員は辞めてもらいたい。

自治体で働く職員は、誰よりも自分が働く地域のことを知つていなければならぬ。

皆さんはどうですか？ 例えば福祉のことを聞かれたときに「私は福祉部門でないのでよく分かりません。」なんてことありませんか。それは地域を視点にして自分を形成していないということ。確かに全部分かりなさいとは言いませんが、せめて自分のまちをうまく案内できるタクシーや運転手程度の知識は持つていてほしいですね。

ポジティブなストレスが加わることで眠っている細胞が目覚める！

20～21世紀に最も発展した学問の一つが脳科学です。これは本当に革命的な発展を遂げました。この革命的な発展の中で色々なことが分かり始めてます。

だいたい体重1kgで細胞が1兆あるそうです。その1つの細胞の中に1冊500頁の本が3,000冊以上の遺伝子情報が詰め込まれていると言われています。

しかし、これだけの情報量が詰め込まれている細胞のうち使われている細胞は数%だけ。人生の中で殆どの細胞が目覚めないまま死んでいくそうです。では、どうやったら目覚めるのか？

今回の震災で被災した自治体では、ストレス症状を発症している職員が多数いるそうです。このストレスは当然ながらネガティブなストレスです。あの3.11の震災後、殆ど夜を徹しての仕事がすごいストレスを与えていて、意欲を燃やして、次に何かやろうというような細胞が目覚められないでいるんですね。

逆に、次に何かやろう！というようなポジティブなストレスが加わることで、眠り込んでいる細胞にスイッチオンし、今までにない力や意欲が出るなんですね。

最初にこの会場に入った際に感じた「熱気」。このグループの皆さんの中にはまさこのポジティブなストレスが効いていて、今、この瞬間にでも眠り込んでいる細胞が目覚めているんですよ！ ぜひ、そう思ってほしい。

人間にとって一番大切なことは「激励し合える」こと！

それってなぜか？ …皆さん楽しいですよ。やっていることに意味があると思えるですよ。やっていることに意味がないと思うとネガティブなストレスに変わってしまうんだけれど、この会場は違うでしょ。自分でもやっていること自体を評価し、更に他の人たちと激励し合えるでしょ。人間にとって一番大事なのは「激励し合える」ことなんですね。他の人の関係で、自分が生きていることの意味を確認できれば、それまで眠りこんでいる細胞が目覚める。これが科学的に分かってきているんです。

ですから、潜在的なポテンシャルが何%オッズになるのかによって、その人の活性化につながるわけですよ。今のところ科学的に、この潜在的な力の目覚めというものは、両親から受け継がれた遺伝性のものだけではなく、その人自身の置かれた「環境」によるらしいということも分かってきています。



何かに触れたり、何かに出会ったりすることによって、今まで眠り込んでいた細胞が目覚めるということが科学的に分かってきているんですよ。ですから、皆さん方がどういう自分を取り巻く、どういう環境の中で毎日を暮らしているかが重要になるということですね。

縦の秩序を守る上司と戦わなくちゃいけないんですよ！

仕事って、「事に仕える」と書きますね。この事に仕える「事」とは何であるかということが重要なんです。ちょっと飛躍した話になりますが、自治体職員の方々は必ず辞令をもらって仕事をしますよね。あの辞令の意味って考えたことありますか？

一つは、働く場所と時間が限定されるということ。もう一つの特色は、皆さんの職場の中には上司がいますよね。上司と部下の関係で成り立っている。つまり「縦の秩序」で物事が運ばれていくことが前提となっている仕事場であるということです。では、時間外であれば何をやっても自由かというと、公の現場ではそうはいかないんですよね。時間外でやっている活動も気にしている人たちがいるんです。

今日、ここに集まつた皆さんは職場の上司からマークされていると思ってください。脅しても何でもなく、このような飛び出す公務員が集まるような勉強会に参加するということは、職場の秩序を崩す可能性があると思っている管理職がいっぱいいます。

なぜかというと、やはり外でやる活動って楽しいでしょ。その楽しい体験を職場の中にも反映させていきたいと思うでしょ。それがいわゆる職場の秩序を崩す！ と思っている管理職がいっぱいいるわけですよ。あなた方はそんな上司と戦っていかなくちゃいけないんですよ。

まずは悩んでみること。そのためにも何かに関心を持つこと！

今日に至るまで、それが出る杭と言ってきたわけです。私は、どうせならうんと出ろ！ と言つきました。少々出ると打たれるから、うんと出ちゃえと。そして、不遇な期間はあるかもしれないが必ず時代が君を呼び戻すから頑張れ！ とも言い続けてきました。

当初から私と付き合っていた職員はみんな不幸になったんです。あなた方が幸せな公務員人生を送ったかったら、新しい問題・課題なんか気がつかないことです。ボーッと暮らすんです。そうすると絶対に悩みも起ります。その方が幸せです(笑)。

今日のように勉強会に来ちゃって、私の講話を聴いたことで不幸になりますよ(笑)



まあそれは冗談としても昔から学生たちに言い続けてきたことはまず悩んでみろ！ということ。でも悩むためには問題がないと悩めない。その問題を見つけるためには何か関心がないといけない。

これは変だ、どうしてこんなことになっているんだろうか、どうしてみんな黙っているんだろうかということに直面した時に、その人の中にある種の問題意識が生まれるんですよね。問題意識が生まれれば、次は調べますよね。そしてこの問題に取組んでみようとなるわけですね。

崩れ去った原発安全神話…

日本では大多数の人々がごまかされていることを含めて、固く信じられてきたことがあります。それが「固定観念」と言われるものですね。この固定観念の中の特に搖るぎようがないものを「神話」と呼ばれています。

例えば安全神話の代表的なものが2つあります。正しくは2つあった…。1つは新幹線安全神話です。これは今でも崩れていませんね。しかし、もう1つの安全神話はあの3.11の震災で崩れ去りましたね。原発です。

放射能漏れがほんの一時的に起こるということは想定されていたので、その対策は講じられていましたが、まさかメルトダウンして、持続的に放射能が飛散し続けるということは想定していなかった。しかも今回の原発事故は津波の影響じゃない。既にその前に地震でやられたんですよ。まさに設計ミスです。

この原発事故によって安全神話が崩れたと同時に、今後、原子力発電に依存していくべきかということを問われています。だけど、人命を考えればこのダーティーなエネルギーとは折り合えないですよ。ですから、どうやって原子力発電とサヨナラできるかが今後の焦点になってきますよね。

震災から見えた住基法の厳格さと、それゆえの非常時の運用…

この3.11の事故によって安全神話が崩れただけではなくて、地方自治法の上でも非常に重要なことが起きたんです。

原発事故によって、10万人を超える住民が避難を余儀なくされました。わが国ではすべての人が必ずどこかに住所を有していますよね。それを確定している法律が住民基本台帳法(以下「住基法」)です。この法律は本当に厳格に運用されています。

例えばある人がA自治体からB自治体に異動する際は、まず転出届を出して、15日以内にB自治体で転入届を出さなければB自治体の住民にはなれません。住民になれないということは「住民たる地位」をしめることができないということです。この住民たる地位とは、自治体の代表者たる首長や議員を選ぶ権限を持つということです。その代償として納税する義務を負い、その見返りとして様々なサービスを受けるという仕組みになっているんですね。これを前提として考えると、原発事故で避難を余儀なくされた人々は、強制的に外に出されたわけだから自分たちの責任ではありませんよね。ホントのとばっちりですよ。

ですから私が思うには転出届も転入届も出す必要がないんですよ。なぜならば、避難区域とされた自治体から全員が外に出され、しかも既に15日以上暮らしているわけですから厳格に言えば全員が転出届を出さなければならない。そこに土地があり、今、選ばれている首長と議員がいるものの住民はそこに暮らしていない。これを地方自治体といえますか？自治体の崩壊ですよ。これを許せますか？許されないでしょ。

今回、避難している住民は、総務省が運用するネットワークに登録されれば転出届を出さなくてもいいことになっています。これは重要なことです。ただ、避難先の自治体では、この住民に対しても学校や介護保険などのサービスをしているわけですね。そうすると、その自治体にはその分の負担がかかります。この負担に対して財政支援できる方向で現在、特別法を作成しています。



政治とはすべての活動に先立つある活動のこと。 それが崩れると、人と人の共生・共生の関係は成り立たない！

私たち政治学、もっと限定すると行政学に携わっている人間からみると、「政治」を考えたときに政治・経済・文化という活動があって、この3つの活動が社会を構成するということがベースになっています。

そのうち政治という営みがどのような機能を果たしているのか考えた場合、例えば誰かと全面的な紛争状態になったときにその紛争をやり抜くことで全てのエネルギーが注入され、それ以外の活動ができなくなってしまう。ということは、皆さん方が今日のように勉強会に参加できているのはそのような紛争状態がないからできるんですね。

従って、他の人たちとの関係の中で、君も生きていていいね、僕も生きているよという関係。即ち互いが互いの存在を認め合う関係が前提になければ社会は成り立っていないですよね。

しかし、この関係は、自然には成り立たないんですよ。どこかで仕組みを持っていて、社会の中の基本的なルールとして埋め込まれているんですよ。そのことを可能にしている営みこそが「政治」なんですね。



政治は全ての活動に先立つてある活動のことを言うんです。それが崩れてしまうと、人と人の共存・共生の関係は崩れてしまうんです。それが成り立つから他の活動ができるんですよね。

この社会の中の営みを決めるやり方の中で、どう見たって国・県・市町村のレベルでは違いがあるべきです。ですから市町村レベルではより一層、生きている人々の具体的な生活の場である「地域」が身近にあるわけです。この「地域」をどう考えるかというと、一番の基本は、自然と人、人と人が共存関係で成り立っているところだと思います。

その共存関係を可能にする様々な活動のことを「コミュニティ」と呼んでいます。



このコミュニティはあなたの方の意志・志に支えられている！

このコミュニティという活動を成り立たせる必須条件が「プライバシーの共有」と「共同作業」です。ですから厳格にプライバシーを守ったり、共同作業がないとコミュニティは成り立ちません。地域の中にコミュニティが成り立つかどうかはこの「プライバシーの共有」と「共同作業」があるかどうかなんです。でも、これって、地域以外にも成り立ちますよね。だって、この勉強会という場も一つのコミュニティでしょ。こんなに仲がいいということはプライバシーも共有されてるんでしょう？共有されてなかつたらこんな共同作業ができるわけないじゃないですか。従つてコミュニティという概念は地域以外の場でも成り立つんですよ。

従つて、地域だけじゃなく、どこでもコミュニティはできる。そこで決定的に重要なのは、「僕(私)はこれをやりたい！」という自発性なんですね。仕事場では意に添わないことはいっぱいあるでしょ。でも、今日、この場のコミュニティは、自分が「やりたい！」という意欲が前提となっているでしょ。やりたくないければやめればいいんですから。ですから、このタイプのコミュニティはいとも簡単に崩れて消滅しやすいんです。

伝統的な地域社会は嫌でも存在し続けるんですが、あなた方が創っているコミュニティはいとも簡単に崩せる、いつでもやめられるんですよね。だから逆に言うと、あなたの方の意志、志に支えられるんですよ。

そこに僕はなんとなく嬉しくなってくるんですよねえ。やめときやいいのに、仕事もそれぞれ大変なのになんで勉強会なんてするのって。何が楽しいのって。でも自分たちがやりがいのあるコミュニティを自分たちで創りたいでしょ。

圧倒的な縦の秩序の仕組みの中で、横で結び付くことによって何か違ったことが可能になるんじゃないかな…

あなた方が創っているこのコミュニティは、お互いさまの志で結び合っているわけだから、もともと互いが対等で集まってきたいるわけですよね。県庁だろうが市町村の職員だろうが、そこに上下の関係はないでしょ。そんなことを思っていたらこのコミュニティはたちまち崩れちゃいますもんね。ベースにあるのはこの志で結ばれているということ。志が持続するか、志が高いか。この一点で結ばれるんでしょ。

このコミュニティは、もともと対等であることを前提に結ばれているわけですが、これが難しいんですよね。日本の社会では、事を組んで事を為すときに、水平的に対等に結び付いて事を為すということは殆ど試されてないです。社会の仕組みって圧倒的に縦の秩序で運用されているんですよね。だから大きな事が為しうるんですよ。しかし、横で結び付くことによって何か違ったことが可能になるんじゃないかなと思いつ始めている人が少しづつ増えてきましたね。

横に結び合う体験によって、縦の秩序が持っている問題点を見抜くことができる！

自治体レベルではそれを「協働」と言い始めました。これは住民同士では成り立ちますが、役所と住民との間でそう簡単には成り立つはずがないんですよ。私から言わせればあれはまやかしなんですよ。それでも私は否定はしません。なぜか？…仕事の現場へ戻れば当然、縦の秩序が運用されているわけですが、あなた方のようにこの場に出てきて、横に結び合う体験することが潜在的に様々な「事」に対する意欲や気つきを生むんです。外へ出て、横に結び合い、あえて色々なことを体験することで、縦の秩序が持っている力強さを感じると同時に、縦の秩序が持っている問題点を見抜くことができるんですよ！

でもね、長らく縦の秩序を運用してきた、その中で現在のポストまで昇り詰めてきた人たちには、簡単に横で結ぶ合うことを本能的に危ないと感じるんですね。



幕末といえば、あなた方がやろうとしていることは横議横行の禁を破ろうとしていること！

ちなみに「横」のつく熟語であんまり良い意味合いのものってないんですよ。逆に「縦」のつく熟語には悪いものがあんまりない。昔から言葉は人々のフィーリングや物事の考え方を表しているんですね。従つて言葉が体現している言葉の在り方は明白で、日本の社会では昔から横で結び合うことを殆ど奨励していないということなんです。

でも、皆さん方が今やろうとしていることは横に人が結び付けることですよね。これは、「志」で横に結び付くわけですよ。これは歴史的にも大事件になった時期がありましたね。明治維新です。

幕藩体制を何とかしようとした武士たちがどんどん藩から出て、同じように脱藩した武士たちと密会するようになりました。つまり日本国民として自己形成しようと考へ始める人間が出始めたわけです。その殆どが身分の低い下級武士だったわけですよ。

当時は当然ながら、お殿様を頂点にまさしく厳格な縦の身分秩序社会ですよね。そんな社会の中で、脱藩浪士たちが密会していることを気づいた幕府が禁令を出したわけです。これが横議横行の禁令です。

それでもこの禁令を命がけで打ち破って、日本の新しい社会への道を切り拓いたわけですね。それが明治維新の意味だったわけです。

その時に彼らを結び付けたのは水平で結び付く志だったんですね。

ささやかながらこの勉強会にはその可能性が秘められている。横議横行の禁は現代にはありません。しかしながら、あなた方がやろう正在することは明治に例えればまさしく横議横行の禁を打ち破ろうとしていることなんですよ。命を懸けろなんて言いません。だけど、ちょっとした覚悟は必要。

そのことによって、縦の秩序の中で閉塞している日本社会のどこかに風穴を開けられる可能性を持っています。外に出て、地域と結びつくことによって、行政や政治が手つかずだった領域を自分たちで発見し、その領域を仕事の中で変えていきたいという意欲やさやかな行動。そして、その現場で結び付く公務員の中からまた新しい公務員が生まれるんです。

その繰り返し、繰り返しで次の若い世代にバトンタッチしていくことなんですよ。

それはささやかな「改善」であり、改革でもなんでもないと私は思っています。このことを若い頃からずっと言い続けてきました。言っていることはずっと同じこと。同じということは、この議論がまだまだ一般的に通用していないということなんですね。

会場から伝わった熱気こそ、皆さんのが地域の担い手になるんだ！という証

私は研究者として決してメジャーじゃありません。マイノリティなんです。地方自治の学問は現在でもマイノリティの領域です。いつの日か政治学や行政学の中で絶対にメジャーになってみせる！という想いでやってきましたけどね。

私は自分の学問のことを自治体行政学と呼んでいます。この自治体行政学が成り立つためには、そのことを可能にしている現場がないと成り立たないんです。学問だけが成功するってことはあり得ないんですね。ですから、現場が新しい発想で、新しい試みをやってくれることで、後悔で学問が成り立っていくんです。従って、日本の自治体行政学が豊かなになれるかどうかは皆さん方の頑張りにかかるところです。

そして、その頑張りがどういう形で可能にできるかどうか、そのやり方を俯瞰しながら現場に持ち込んでいくという大きな夢があります。

今日、秋田に来まして、この会場に入った時に感じたこの熱気こそが皆さん方がそれぞれの地域の新しい担い手になるんだ！という証だと私は感じました。



事例報告

わたししが踏み出した 小さなはじめの一歩！

バズセッションに先立ち、3名の方から事例報告を紹介していただきました。
それぞれのはじめの一歩を踏み出したきっかけ、想いとはどのようなものだったのでしょうか…3人の想いをお届けします！



それは一人の一歩から始まった～男鹿ナマハゲロックフェスティバル～

秋田県仙北地域振興局 児玉寛希さん

◆元気がない、明るい話題がない、若者がいない…そんな男鹿を活性化したい！

男鹿ロックフェス代表者の方のターニングポイントは25歳の時。それまで勤めていた民間会社を辞め、渡米します。でも、その目的は特になく、とにかく何かしたいという想いだけでの渡米でした。その渡米先で現在、活動されているバンドメンバーなどと出会い、親交を深めました。

その後、彼は男鹿に戻り、起業しました。しかし、その際、男鹿に感じたことは、「元気がない、明るい話題がない、更に若者がいない…」という3つのない男鹿を痛感したといいます。

イベントで演歌歌手が来れば確かに高齢者の姿は見える。でも、若者の姿が見えない…。いったい若者はどこへ行ったんだ！そんな男鹿の現状を感じた彼は、渡米先で知り合ったバンドメンバーとともに音楽を通して男鹿を元気にしたい、活性化したいという強い想いから、男鹿ロックフェスの開催を決意しました。それが彼のはじめの一歩となりました。

◆開催することに大きくなる協力の輪、それはまさに想いの“伝わり”

しかし、開催に至るまでの道のりにも様々な困難がありました。実行委員会を組織しようと各種団体に声を掛けるも全く反応がない。そうであれば自分一人でもやってやろうと、地元の民間経営者や学生、自治体職員などの協力を得て、現在に至っています。

この男鹿ロックフェスの沿革を見ると、面白いところがvolumeの付け方です。ロックフェスは、屋外で行なうことを一つの目標としています。そのため、これまでずっと屋内での開催だったことからvolume0から0.99として開催してきましたが、ようやく昨年、約2,500人を集客する中で、volume1として屋外開催するに至りました。

私がこの男鹿ロックフェスに携わるようになって実感していることが3つあります。まず1つに「伝わり」です。

ロックフェスのスタッフはすべてボランティアです。例えば、ある民間企業のラガーマンの方々が警備に携わってくれたり、地元商工会では物品販売の



協力をしてくれたり、また、ボリューム0では、行政の支援はもらえませんでしたが、ボリューム0.5からは行政側から協力の打診があり、駐車場警備などの協力を得られるようになりました。これは、男鹿を元気にしたい！という代表者の想いが伝わっているからこそだと私は感じています。

◆アーティストにまでも広がる男鹿フェスの知名度！

ロックフェスでつながる絆！

次に「広がり」です。このロックフェスの実行委員会は、立ち上げ当初は、代表者の知人など、身の回りの方を中心にやらざるを得ませんでしたが、現在では、行政職員や学生、更には県外の男鹿ロックフェスのファンの方々が協力してくれるなど、どんどん広がりが見えています。

更に、出演アーティストの皆さんからも「男鹿フェスに参加して良かった」という声も多く、アーティストの間で、男鹿フェスのことが広がり、アーティストの方から参加させてほしいという要望が来たり、そのような広がりを実感しています。

そして、最後に「つながり」です。

今回被災した大船渡でもロックフェスが開催されています。そもそも大船渡ロックフェスは、男鹿ロックフェスのノウハウを引き継いだ形で開催されました。その関係から、現在も交流があり、関係者みんなで大船渡に炊き出しに行ったりする中で、つながりはより深く、より強くなっています。

最後に、私が代表者と交流する中で、とても感銘を受けたこと。それは、「外に飛び出したこと、これがすべてにつながった。大事なことは気持ちを形にしようとするはじめの一歩」という言葉です。

私自身も4月にこのOMに入会し、今回、初めて勉強会に参加しました。まさに今が、私にとっての「はじめの一歩」だと思ってます。



小さな私の渦が大きな渦を巻き始めた！～被災者的心に近づくために～

東北学院大学教養学部地域構想学科 木村彩香さん

◆被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト(つなプロ)での活動

震災後、叔父・叔母の影響で、ボランティア活動に携わりました。その後、被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクトでのボランティアを約1ヶ月行ない、5月にはOM勉強会の事前勉強会の中でプレゼンをさせていただき、6月からは、学生を集めて学生団体を立ち上げ、現在、被災者支援を行なっています。

7月9日に学生200人を集めて、東北復興プロジェクトフェアを開催しました。このイベントは、学生みんなで東北の復興について考え、学生のみんなにぜひボランティアに参加してもらいたいという想いから開催したもので、実際に被災地支援を行なっている団体から活動紹介をしていただきました。

今回は、の中でも被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト(つなプロ)と自分の学生団体について紹介します。

「つなプロ」は、仙台みやぎNPOセンターを中心に、阪神淡路大震災後に立ちあがったNPO団体のプロジェクトです。

阪神淡路大震災では、仮設住宅での孤独死が問題になり、今回はその孤独死を減らすことを目的として、特別な配慮が必要な方のニーズを発見し、専門NPOとマッチングさせること。更には、地域のキーパーソンを見つけることがミッションとなっていました。

◆避難所訪問から見たこと…被災者同士が支え合いながら懸命に生きている姿

4月に入り、私は約30ヶ所の避難所を訪問しました。4月当時、県内に約800～1,000ヶ所の避難所があるとの情報があり、各避難所の状況を把握するだけ精一杯という状況でした。

避難所では自衛隊のお風呂があつても浴槽が深いことや、更には避難所の体育館内にシャワーが設置されて春先の寒さが残る時期で、高齢の方々は風邪をひくを恐れて入れていなかつたりしていて、被災者は心身ともに疲れが出始めしていました。その中でも印象的だったことは、どこの避難所でも被災者同士が支え合いながら懸命に生きている姿でした。

◆大島の人たちの温かさ、海風、空の青さ、日差しの強さを忘れない

その後、5月には、気仙沼市の大島に2週間ほど滞在しました。大島では島民同志のつながりがとても深く、島の方々と関係性を築くことに重点を置き、1週間を過ごしました。もともとはキーパーソンを見つけることが課題とされていましたが、関係性を築いてからでないとキーパーソンを見つけることができない状況だったからです。

大島では、もともと島内の小学校に避難されていたが、プライバシーや個人スペースの確保という問題から、民宿7ヶ所を2次避難所としていました。避難者の方々は共同生活に対する不満や不安、更には仮設住宅に入る時期だったので、新たな生活に対する不安を強く感じました。

大島で過ごしたこの2週間、私は、人の温かさに触れるごとに、涙をこらえる日々を過ごしました。滞在最終日には民宿経営している御夫婦のお宅に訪問しましたが、この時のお二人の優しさ、海風、空の青さ、日差しの強さを今も忘れることができません。お二人は本当に懸命に生きておられました。

◆『見守り隊』を立ち上げ！私たちはこれからも被災者を見守り続けていく！

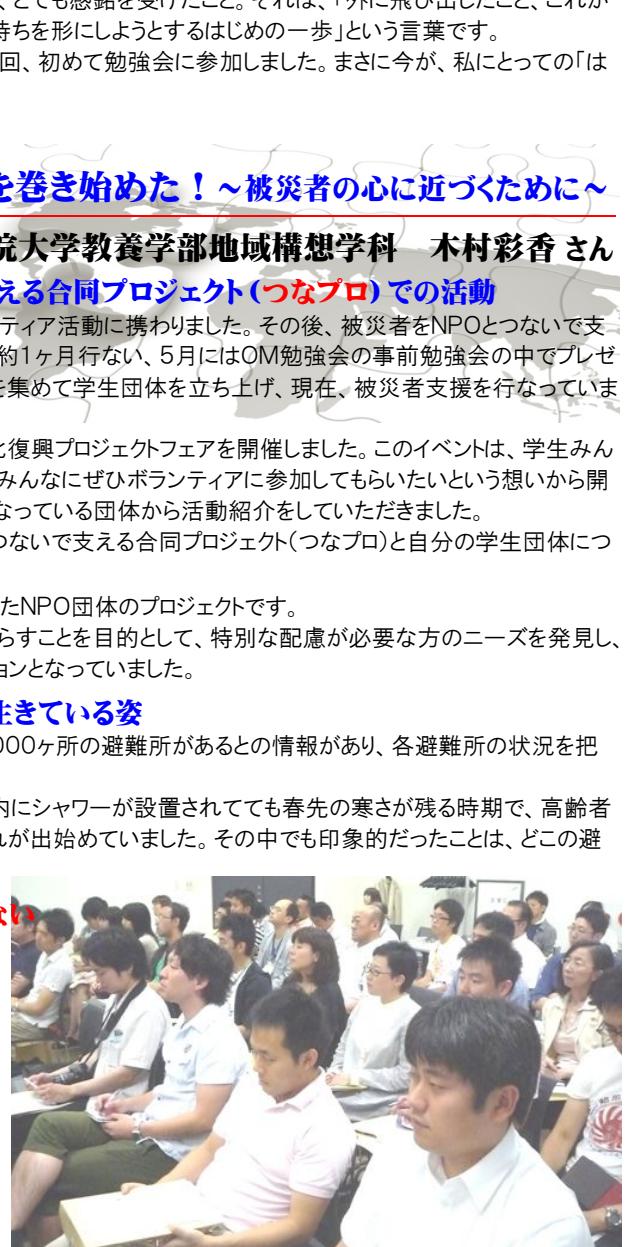
その後、私は被災者に少しでも近づきたいという想いを心の中にしまっておくことができず、「学生による地域支援活動団体見守り隊」という学生団体を立ち上げ、被災者の生活、そして心の安定・自立に向けて継続的に見守り続けることを目的に、現在毎週日曜日に東松島市の被災農家のお手伝いをしています。夏には沖縄からも学生が参加する予定です。

今度は地元の高校生などを含め、地元の方々が主体的に動けるようにサポートしていきたいと考えています。

これからも私たちはずっと長期的に被災者を見守り続けます。大好きな東北の地が、そして愛する東北の人々が喜びと幸せに包まれますように。

特集 東北OM第8回勉強会 in 秋田

外に飛び出した事
それが、すべてにつながった
大事な事は
キモチをカタチにする
はじめの一歩



ひとりの想いから始まった！～さくらこまち115おかいなさいプロジェクト～

秋田県仙北市農林部総合産業研究所 泉谷 実さん

◆笑われるのを覚悟のつぶやき！沿線から「お帰りなさい」の気持ちを込めて手を振ろう！

4月23日、九州新幹線開通のCMをYouTubeで見て、夜中にツイッターでつぶやきました。

『九州新幹線全線開業のCMのような感動を東北でも起こせないだろうか。』

すると、真夜中だというのに数人からRTがあり、それを見て、私は23日から24日にかけて、九州のこの笑顔をどうにか東北にもつなげられないだろうか、悶々とした時間を過ごし、24日、私は後戻りできない決定的なつぶやきをします。

『笑われるの覚悟で提案。4月29日に全線復旧する新幹線。東京発一番列車こまち115号に向かって、「お帰りなさい！」の気持ちを込めて、沿線みんなで手を振りませんか』

これをつぶやく段階で、こまち115号発車まで4日と16時間しか残っていませんでした。

私は横手市を中心にツイッターで地域おこしに取組むYokotterのメンバーでもあり、このYokotterのメンバーがすかさず拾ってくれたことで、私の笑われかもしれないつぶやきを実際にやろう！という動きまで引っ張ってくれました。

◆故郷秋田にやっと帰ってくることができる乗客とこまちへやさしい言葉をかけたい

翌25日にはブログを開設し、おかえりなさい！という気持ちを込めて、「4. 29さくらこまち115お帰りなさいプロジェクト」と名付け取組みます。この時点で3日と9時間40分しか残っておりませんでした。

このプロジェクトに込めた想いとは、故郷秋田にやっと帰くることができる乗客とこまちに対して、「歓迎」ということじゃなくて、「お帰りなさい」というやさしい言葉をかけたい。そして、協力して欲しいじゃなくて、「いいなあ」「楽しそうだなあ」という自然な想いを大切にしてもらって、この取組みに参加してもらえないだろうかということ。

私自身もツイッターやミクシー、フェイスブックといったソーシャルメディアを活用して情報を拡散させていました。あえてマスメディアに対しては情報を流しませんでしたが、翌26日になるとマスメディアからのラジオの出演、新聞取材などのアプローチが増え、27日にはラジオ出演や秋田出身の若者が東京で活動するグループ「WeLoveAkita」がこの取組みに応援表明してくれたりという動きが出始めます。

更にこの日、仙台で私と同様の取組みをしようと想っていた方々とツイッター上で知り合い、この取組みをサポートしてくれたり、またWEB「あきたのかお」編集長である金谷さおりさんが当日、こまち115号に乗って、この取組みをサポートするという申し出もありました。



もう前日の28日になると、私が放っておいてもどんどん情報は広がっていました。そして、当日、こまち115号は発車しました。私は盛岡から乗車しましたが、車内はとても盛り上がり、沿線もツイッターのタイムライン上も笑顔が溢っていました。

◆大切なことは、裸踊りする一人の言いだしちゃを見つけた時に、勇気をもってフォロワーになってあげられるかどうか

この取組みを振り返ってみると、笑われるのを覚悟でつぶやいたことは、まさに一人で裸踊りするバカだったわけです。でもそれを助けてくれたフォロワーの方々の存在が非常に大きかったです。ホントに笑われても仕方ないなあと思いつつつぶやいたことが、このような形になったのはやはりフォロワー。

私たちがこういった取組みを行なうにあたって一つアドバイスするなら、優秀なフォロワーを3人押さえておいた方がいいよということ。でもそれ以上に、私たちがやるべきことは、こういった一人のバカ(言いだしちゃ)を見つけた時に、「じゃ俺も乗るよ！」と勇気をもってフォロワーになってあげられるかどうかだと思います。

私たち一人一人が今日のこの勉強会を通じて、一人の裸踊りするようなバカを支えていけるフォロワーになることを心から祈念しております。

バズセッション

職域を越え、つながろう！ 一緒に飛び出そう！

事例報告後、小グループに分かれ、参加者同士のバズセッション（意見交換）を行ないました。

バズセッションでは、それぞれのグループで、はじめの一歩を踏み出すために必要なことを話し合い、最終的に「飛び出す、つながる！はじめの一歩五ヶ条」を完成させました。



早速、各グループに分かれ、自己紹介＆基調講演・事例報告の感想発表♪

どこかのグループもまだちょっと緊張気味でしょうか…(笑)

皆さん、リラックス、リラックス☆

↑総合進行の滝本さん☆





やや緊張気味の自己紹介を終え、いよいよ
グループワーク☆

まずは「はじめの一歩」を踏み出すために大切なことを各自、付箋紙に記入。

→福田さん(坂出市)(左)も大きな背中を丸めて、真剣に考えてます(笑)



個人ワークを終えると、それぞれ発表♪

もうこの辺になると、どのグループも和みはじめ、皆さんの声

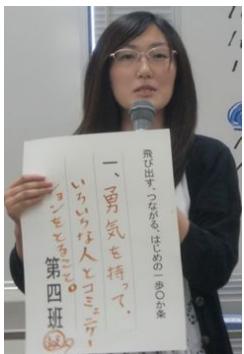
のトーンも上がり始めました♪

なんだか盛り上がってきたぞ~!!

↑今回、OM初参加の前田さん(尼崎市)♪ 口元がおちやめですねえ~



↑どうですか、参加された皆さんの表情☆ ホントに皆さん、いい笑顔してますよね♪



←グループワークの中で、まとめ上げられた「はじめの一歩」を踏み出すために大切なことを発表していただきました。

どの発表者もグループ内で、どのような意見交換がなされたのか、分かりやすく発表していただきました☆



←各グループの発表後、
大森先生から講評をいただきながら、今回のバズセッション全体での
「飛び出す、つながる！
はじめの一歩五ヶ条」を
完成させました♪



◆はじめの一歩を踏み出すための五ヶ条

- 一、はじめの一歩は「バカ」になること
- 一、「笑顔」と「楽しい」をモットーに取り組むこと
- 一、地域に出て、地域の人と、地域の話をすること
- 一、「なぜ」を探して、外に出てみること
- 一、とりあえず、行(言)ってみること

↑最終的に完成した五ヶ条です！

もちろん、これ以外にもグループワークの中で、それぞれが
心に響いた言葉がきっとあったはずです。

「地域に飛び出したい！つながりたい！」、そんな想いが詰
まったタネが参加された皆さんの中にきっとあったはずで
す。

今回、大森先生の基調講演や事例報告、そしてバズセッ
ションを通して、そのタネの殻を破るような言葉やキーワードが
見つかったのではないかでしょうか。

その言葉やキーワードをそれぞれが持ち帰り、それぞれの職
場で、それぞれの地域の中で、飛び出す、つながるはじめの一
歩が、この秋田の地から踏み出されたのではないでしょか♪



interview

『人のつながりを持つ大切さ』を実感☆

秋田大学 本間 優紀 さん

OMに初めて参加させていただいたが、普段の大学生活では関われない方のお話も聞くことができて大変勉強になった。

参加者は地域活性化や被災地の復興に積極的な人たちの集まりで、エネルギーあり、多くのことを吸収できた。

大森先生の講演では『ポジティブなストレスは意欲を生み、「今やっていることに意味がある・楽しい」と思えるため激励し合える。持続的に続けるとそれまで眠っていた細胞が活性化し潜在的な能力が目覚める。』というお話を印象的だった。

この勉強会に参加したことできっと私の眠っていた細胞も目覚めたと思う。また横のつながりの難しさと重要さを学び、このOMにこれからも参加ていきたいと強く思った。

今回のOMで1番感じたことは「人のつながりをもつ大切さ」である。何かしたいと思っても人とのつながりがなければ伝えることができないし、行動することができない。実際に、私は大学1年生のうちから「何か人の役に立ちたい・ボランティアをしたい」と考えていたが、探しても実際に行動に移すまでにつながる人がいなく、何もせずに終わってしまった。

2年生になり大学のある先生のつながりで、NPOの方を紹介してもらい、そのつながりで今回のOMに参加することができたことからも、きっかけを与えてくれる人のつながりに感謝している。

Twitterやmixiなど情報を伝える手段はたくさんあるが、もし誰にも読まれなかつたら自分の発信は誰にも届かない。また、誰かとつながっていない情報も入らない。

4.29さくらこまちおかえりなさいプロジェクトは感動したし、ぜひとも参加したかったが、残念ながら私にはその情報をもらえるつながりがなく、参加できなかつた。そのことからも人ととのつながりを大切にしようと思った。

人とつながりを持つこと、アイディアを笑われるかもしれないけど言ってみること、それをフォローする最初の人になる勇気を持つこと、とりあえず行動すること、すべてが大切であり、まず自分からアクションを起こすべきだということを学んだ勉強会だった。



interview

まちづくりの原点は「人」である！

それを体感できた素晴らしい機会となった☆

東北OM@秋田 吉田 理紗 さん

この度の秋田勉強会を振り返って浮かんだキーワードが、「個」。

大森先生の基調講演では、これからの時代を生きる一人ひとりの「有りよう」について軽妙なユーモアを交えたエールを。

続く3名の方からの事例発表はすべて「個」、一人の想いから始まったものでした。後半の意見交換は、ご参加の皆さん一人ひとりから出された感想が紡ぎあって「5箇条」というまとまりになりました。

今回企画の秋田メンバーも、個々に様々な能力や想いを持った10人が集いました。その「彩り」をそのままに活かしながら、それぞれがチャレンジすることを楽しんで企画を進めたいと考えておりました。ですので、後のMLで多くの方から、秋田メンバーについてふれている感想をいただいたことが何より嬉しく思つた点です。

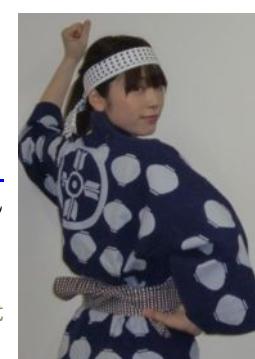
もしかしたら秋田メンバー初チャレンジ＆赤字はなんとしても避けたい！というみなぎる必死感が皆さんの中に届いたのかもしれませんね(笑)。

「まちづくり」の原点は「人」である、ということを、身をもって体感できた素晴らしい機会でした。ご参加の皆さんと、OMのネットワークに感謝いたします。

photo...

→東北復興祈念ハガキを販売する真紀ちゃん@酒田

決してこけしを食べようとしているわけじゃありません(笑)



↑秋田メンバーお揃いで着用していたTシャツは、秋田市内の学生が復興への想いを込めて作製したものでした。



↑チーム仙台の皆さん♪ 5月勉強会でチャリティーオークションに出品していただいた「高級こけし」を秋田でPR！無事、落札しました！

→編集部は見てしまった!!!

そんな高級こけしを肘掛けにしてしまう幸輝くん☆

さすが、仙台期待の星！器が違いますわあ(笑)



↑交流会の進行を務めた静香ちゃん＆美和子ちゃんの初対面シーン☆

まさかあんなサプライズ企画があることを知る由もない美和子ちゃん♪



↑彩香ちゃんが活動する見守り隊に対するカンパのお願いシーン☆

お兄さん＆おねえさん達からいっぱい集まったかな？

The 交流会



↑OM恒例の交流会です♪ 勉強会で盛り上がったテンションのまま突入したこともあり、今回も大いに盛り上がっておりました！ 残念ながら編集部も飲みに徹したため、その興奮をお届けできません。。。ぜひこれは直に感じていただきたいですね♪♪

秋田の文化と まちを楽しむ ぶらり散策♪

勉強会翌日(24日)、市民参加ワークショップで作成した「ぐるっと文化財マップ」を使い、ガイドボランティア「秋田ふるさと案内人」さんおすすめのコースをぶらり散策♪

秋田を代表するお祭り「竿燈」の見学＆体験、更にお昼ごはんは、農家さんがつくった美味しい漬け物とおにぎりを堪能。

参加された28名の皆さんものんびりゆっくり、身近な秋田を体験することができたのではないかでしょうか♪ それでは、そんなツアーの様子をご覧ください！



さあ、ツアーのスタートですよ！



①アルヴェ和室に集合した参加者28名☆

ちょっと男性率が高い??



お茶っこ、あがってたんせ～♪

②そんな参加者を理紗さんと美沙緒ちゃんによる「チームかっぽう着」がお茶っこでおもてなし。
③静香ちゃんが、おばこ娘の衣装でエクスカーションのご挨拶。

「おばこ娘は未婚の若い女性という意味ですが、今日は独身の気持ちでがんばりま～す」

④美沙緒ちゃんが、市民参加で作成した「文化財マップ」づくりワークショップの事例紹介。

◆前日のお酒も吹っ飛び、一気にテンションが上がる男性参加者たちの顔が思い浮かびますね♪



⑤ガイドボランティア、秋田ふるさと案内人さんのガイドでまちあるきスタート。

こちらは千秋公園お堀。蓮の緑があざやかです！



どっこいしょ～ どっこいしょ～♪

⑥秋田市民俗芸能伝承館「ねぶり流し館」に到着！

秋田市竿燈会の迫力満点の演技を見学。

「どっこいしょー どっこいしょー」のかけ声で大盛り上がりです♪



⑦秋田県庁竿燈会に所属する滝本さん&戸嶋さんもお囃子を披露♪

⑧OMメンバーのみなさんも竿燈にチャレンジ！

これが、思った以上に重くて難しいんです！

⑨竿燈体験後は、緑あふれる千秋公園を散策☆

↑久保田城表門です。今はなき久保田城ですが、この門は文献、発掘調査などで再建されました。

おなかぺっこぺこ～

⑩まちあるきが終了後、お楽しみのお昼ご飯♪
横手市大森町の農家さんが朝、早起きして
つくってくださったおにぎりとおかずを堪能！



↑私も朝、お母さんたちと一緒に
早起きして、おにぎり握りました☆

突然のなまはげ登場！

⑪「飲み過ぎの職員はいねが～！」
のんびりムードに勢いよくなまはげが
登場☆
秋田メンバーの心憎いほどの
おもてなしに感謝・感謝です♪



⑫おにぎりのお米がとれた田んぼのスライドや、棚田を活用
した村おこしの取り組みを映像で見ながらのお昼ごはん☆
これは美沙緒ちゃんの嫁ぎ先の取り組みなんですね♪

⑬のんびりみんなでご飯を食べていたその時。
宮本さんの背後のふすまが、「トントン」。



↑ガイドの池田さん・大門さん、
ありがとうございました！



↑チーム竿燈の滝本さんと
打矢さんもお疲れさまでした♪

⑮↑國松くんは、まるで子供のような笑顔でご満悦♪
→後藤さんもなまはげの餌食に…(笑)



⑯→↑暴れ散らしたなまはげが去った後は、体験タイムです♪
皆さん、ノリノリでなまはげに扮しておりました♪♪



interview

秋田ならではの伝統と現代文化が
共存する街づくりに感動☆

NPO法人あらた 斎藤 雅美 さん

千秋公園、ねぶり流し館など、秋田市民いわく
「王道」な観光コース。

ふるさと言葉フル活用のふるさと案内人の方の
説明は半分以上？？？な状態でしたが、その言
葉の温かさと、きれいな景色に癒され、秋田なら
ではの伝統と現代文化が共存する街づくりに感動
しました。

また、雇用創出事業での「おもてナビ」開発も、おもしろい発想だと思いました。
ガイドはもちろん、「絶景写真ポイント」を楽しめる機能も充実。汎用性の高い機
能なので、ベースを各地で共有化し、日本全体に普及できたら良いのになあと
思いました。

エクスカーションは全体を通して、秋田OMの皆さんのおもてなししが光っていました！秋田おばこがいたり、なまはげが出たりと、秋田OMの皆さん「みんなに楽しんでもらいたい！」と言う気持ちが伝わってきました。

地元農家の米を使ったおにぎりも本当に美味しかったです！秋田OMの方が握ったと聞き、さらにビックリ。こんなところまで「おもてなし」精神が…！その気持
ちとおもてなしに、とても楽しい時間を過ごすことができました。

秋田OMの皆さん、本当にありがとうございました。



旅の締めは中嶋家の現実？？

⑰エクスカーションの締めは、中嶋夫妻による
「鬼嫁あらわる！真剣白羽取り失敗」の図。
「そりやあ～!!!」まさに中嶋家の力関係をあらわしています(笑)



interview

勉強会を通じてつながった
秋田メンバーと共に新たな一歩へ☆

東北OM@秋田 中嶋 静香さん

当初は人が集まるのかどうかで一悶着し会費も赤字覚悟で挑んだ勉強会ですが、多くの方に集まっていただき、本当に嬉しく思います。

運営に際して、ほんの1, 2ヵ月前はほとんどが他人同士だった秋田メンバー。勉強会前日までなかなか決まりなかったタイムスケジュール、ほぼ本番ぶつけのなまはげサプライズ、エクスカーションの進行役を知られ酔いの醒めた交流会二次会(これは完全に私の確認ミスでした)とハプニングの連続で、果たして無事に終えられた、と言ってもいいのかわかりませんが、私自身としてはとても充実した勉強会になりました(もちろん反省もしています)。

いつもは鬼嫁のお面を被ったシャイな私ですが、今回の勉強会を通じ知り合うことのできました秋田メンバーと共にまた新たな一歩を踏み出していきたいと思います。



特集 東北OM第8回勉強会 in 秋田



またのお越しをお待ちしています♪



総括！

横の集まりがこんなにも高いパフォーマンスを発揮すること、
こんなにも脳細胞を活性化させることを体感！

東北OM@秋田勉強会実行委員長 中嶋 結也さん

「飛び出す、つながる、はじめの一歩」をテーマに、秋田県で勉強会を開催するにあたり、秋田までお越しいただいた皆様、USTでご覧いただいた皆様をはじめ、秋田勉強会を応援いただいた皆様に感謝申し上げます。

秋田勉強会は、そのテーマにふさわしく、まさに「はじめて」だらけの勉強会でした。私がOM酒田メンバーに「はじめて」お会いした時の一言がきっかけとなり、「はじめて」秋田で開催する勉強会を、ほぼ「はじめて」会う10名の秋田メンバーが企画・運営しました(内3名は新規採用職員)。最初のうちは不安もあったのですが、おかげさまで大成功の勉強会にすることができました。これもひとえにメンバーに恵まれたためだと思っております。

思いつきで行動するリーダーをぐいぐい引っ張つていただいた滝本さん、秋田市観光のスペシャリスト兼自らも竿灯披露いただいた打矢さん、名フアシリテーターとして秋田メンバーの能力を引き出した吉田さん、OMメンバーの胃袋を一手に引き受けさせていただいた平元さん、セクシーボイスで観客を魅了した戸嶋さん、2次会で神ブレイを連発した川村さん、常に細やかな気遣いをしてくれた佐藤さん、なまはげボテンシャルを遺憾なく発揮した児玉さん、最後に鬼嫁へと変身した静香、さらには第1回打ち合わせの際に遠方から駆けつけていただいた先輩メンバー、メンバーそれぞれがその能力を出し切り、誰一人が欠けても今回のような勉強会にすることはできませんでした。はじめの一歩を踏み出し、このようなメンバーとつながることができた幸運を感謝せずにいられません。

宮大工の西宮家に口伝で伝わる言葉として大森先生がしばしば紹介する言葉として次のような言葉があります。

「塔は木組み 木組みは 木のくせ組み 木のくせ組みは 人組み
人組みは 人の心組み 工人の非を責めず わが身の不徳を思うべし」

【解説】塔は達成すべき目標である。木はこの目標達成のための材料・手段である。その木の木質や木目、材質や向き不向き等の特色などのくせを見抜いて用途に応じて組み合わせる必要がある。

木と木を組み合わせる作業は同時に人の配置と協働である。ちょうど木にくせがあるように人にもくせがある。このくせを上手に組み合わせる必要がでてくる。

「人組み」とは組織化(特定の目標の実現に向かって人々を協力させること)のことである。そして、この「人組み」の核心は「人の心組み」にあるというのである。人はひとによって動きもすれば、人によって動かないこともある。

人は何によって一番よく動くか。心動かされたとき最もよく動く。組織化の要諦はこの「心組み」にあるというわけである。

「心組み」の出来不出来が目標達成の有効性を大きく左右すると考えられるからである。

私はタテの論理によらないヨコの集まりがこんなにも高いパフォーマンスを発揮することを知りませんでしたし、その作業がこんなにも脳細胞を活性化することを知りませんでした。

はじめの一歩を踏み出させてくださった皆様に感謝いたします。

なお、今回の勉強会を機に秋田メンバーは次の一步へと踏み出し始めております。秋田メンバーの次の歩みにご期待ください！！



OMの 素材



№63 川村 忠寛

Tadahiro Kawamura

◆生年月日:1983.10.29

◆所属:八峰町役場総務課(秋田県山本郡)

◆出身:八峰町浜

◆経歴:東北大学文学部卒。

大学卒業後、民間企業1社を経て2011年4月に八峰町役場に入庁、総務課に配属となる。



№64 日下部 靖広 Yasuhiro Kusakabe

◆生年月日:1966.5.5生(子どもの日)
(丙午の45歳)◆生まれた場所だけは、福島県伊達市
(旧保原町)です。

◆所属:寒河江市農業委員会事務局

◆経歴:平成元年、寒河江市役所採用。
昨年から2度目の農業委員会事務局
(通算8年目)

◆一言:ハンチング帽を愛用している寒河江市の日下部です。

「志高く、されど敷居は低い」このフレーズになんとなく魅かれ、昨年の5月から東北OMにお世話になり、様々な人に出逢い、心地よい刺激をいただいております。

当市でも業務改善改革運動を進めておりますが、始まったばかりなのに現在小休止中(?)かも…
でも、1人の「小さな一歩」からみんなの「小さな一歩」を目指しております。

これからもよろしくお願いします。

最後に、とある方のちょっとしたフレーズを紹介させていただき、自己紹介を終わります。

『ほのぼのとして、何となくユーモラスで、どこか懐かしい感じがして、いつも無邪気で遊び心を失わない』そんな人間でありたい。」

次回予告 福島に向かう前に… ちょっと山形に途中下車しよう！



東北まちづくりオフサイトミーティング 第4回ミニ勉強会&いも煮会

日時 10月9日(Sat) ~ 10日(Sun)

会場 山形市内

ミニ勉強会は、これまで開催してきたような外部講師の講話をメインとする「勉強会」形式ではなく、OMメンバー内の自前形式の勉強会として開催するものです。

今回のミニ勉強会では、OMメンバーによる研究発表、更にはファシグラ道場などを予定しております。

また、翌10日には、東北OM発足当初から毎年恒例となっている山形のいも煮を今年も開催します！

詳細が決定したいマーリングリストでお知らせしますので、お楽しみに♪



次回 OMに終着駅はなし！

予告 次なる目的地☆福島へ向けて出発！



東北まちづくりオフサイトミーティング 第9回勉強会 in 福島

日時 11月12日(Sat)

会場 福島市内

テーマ 福島の未来

秋田勉強会の余韻もまだ残る中、東北OMの歩みは留まりません！

次なる目的地は福島県です！

福島勉強会では、浜通り、中通り、会津という福島県の3つのエリアから、福島県の活性化のために頑張っている方にお集まりいただき、「福島の未来」について、語っていただきます！

そして、「福島の未来」を通して、一人ひとりがふるさとの未来を感じてもらえるようなイベントにしたいと考えております！

本間ちゃん@酒田も福島に向かう準備は既にできるみたいですね♪
でも、なまはげのお面は置いていきましょうね(笑)

End roll

あの秋田勉強会から1ヶ月が経とうとしているんですね。編集・構成作業を進める中で、あの盛り上がりを思い返していました。

秋田勉強会に参加された皆さんには振り返りを、残念ながら参加できなかつた皆さんには少しでも秋田勉強会の様子を感じてもらえれば幸いです☆

なお、今月のNLはボリューム満載のため、2部構成でお贈ります。まずは、秋田勉強会特集として、今回作成ましたが、第2部は通常の連載企画や後藤好邦さんのポートアンドレポートなど、中身の濃い内容で現在作成中ですので、ぜひお楽しみに♪

(Newsletter編集部:栗原市 鈴木 敬)